＜噴火湾周辺地区水産環境整備マスタープラン概要＞

事業主体	北海道	**対象種**	ソイ類(指標種)・アイナメ(指標種)、ソウハチ・ハタハタ
目　標	回遊性魚類の変動・減少という地区の課題に対し、比較的安定な地域魚種に焦点を当てた水産環境整備により、海域全体の生産量の向上を図る。	**整備方針**	ソイ類及びアイナメを指標種に位置づけ、地区の地形・底質・藻場の状況から、生活の場となる藻場や沖合の岩礁が不足しているため、これらの整備により生活史全体に渡る生息環境空間の創出を行う。また、これらの環境を共有するソウハチ、ハタハタの特性を考慮した形状を取り入れ、海域全体の生産力の底上げを目指す。

ソイ類の成長段階に対応した整備内容

【稚魚期】生活の場となる藻場の整備
【未成魚期～成魚期】
生活の場として利用する沿岸の藻場や沖合の岩礁性施設(30m～100m)の整備

クロソイ

アイナメの成長段階に対応した整備内容

【稚魚期】生活の場となる藻場の整備
【未成魚期～成魚期】
生活の場として利用する沿岸の藻場や沖合の岩礁性施設(30m～150m)の整備

アイナメ

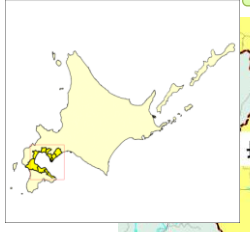
モニタリング方針

【藻場】
藻場の生息量(海藻・ソイ類稚魚・アイナメ稚魚・ウニ)・餌料環境(葉間・葉上・底生)・基礎(水温・塩分)調査を行う。

【魚礁】
蝟集量(魚類)・餌料環境(プランクトン・ベントス・付着生物)調査・基礎調査(水温・塩分・クロロフィルa)を行う。

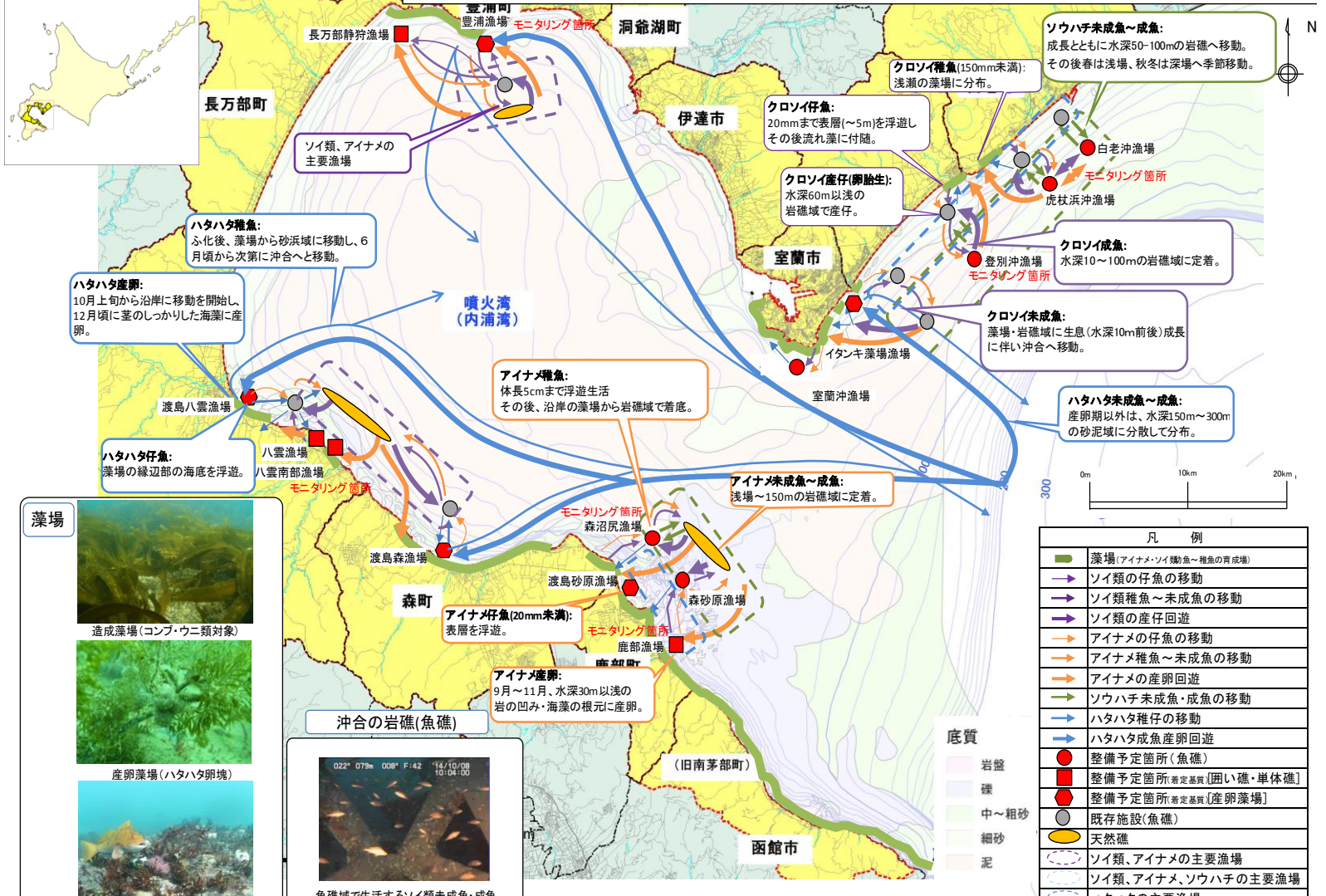
北海道噴火湾周辺地区におけるソイ類・アイナメ・ソウハチ・ハタハタの生活史に配慮した漁場整備図

位　置　図



水産環境整備の基本方針

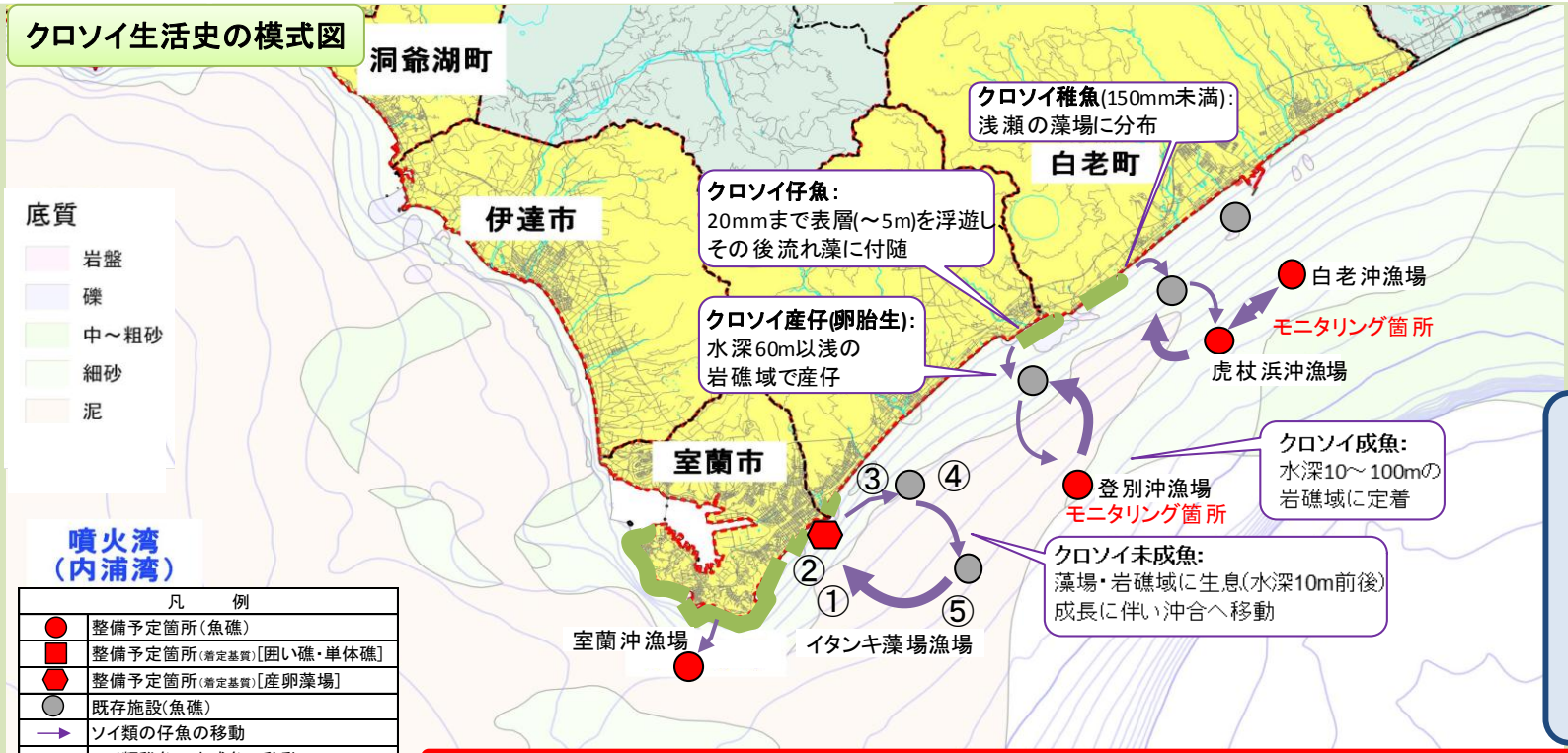
ソイ類及びアイナメの生活の場となる藻場や沖合にかけての岩礁性施設を整備し、生活史全体にわたる生息環境空間を創出する。
また、これらの環境を共有するソウハチ・ハタハタの特性を考慮し、生活の場や産卵に適した形状を取り入れ、海域全体の生産力の底上げを目指す。

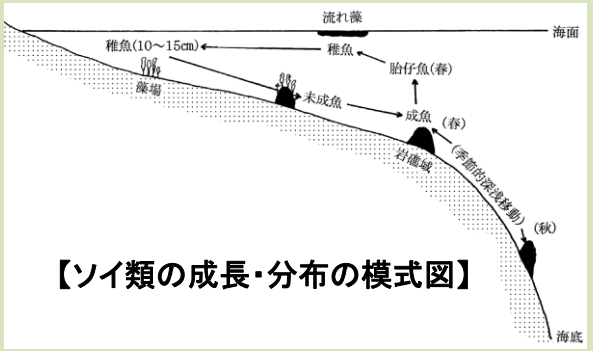


＜噴火湾周辺地区水産環境整備マスタープラン　課題と対策のポイント＞

【指標種の生活史】	①産仔期	②仔魚期	③稚魚期	④未成魚期	⑤成魚期
ソイ類	水深60m以浅の岩礁域で産仔する。	20mmまで表層(～5m)を浮遊し、その後流れ藻に付随する。カイアシ類を餌とする。	浅瀬(10m以浅)の藻場に分布。モエビ類、エビジャコ、ワレカラ、甲殻類幼生を餌とする。	水深10m前後の藻場や岩礁域に生息し、成長とともに深みに移動する。モエビ類、エビジャコ、カニ類を餌とする。	水深10～100mまでの岩礁域に分布し、春に浅場・秋に深場という深浅移動を行う。他の魚類やイカ類、カニ類、エビ類等を餌とする。

時期	場所	課題	対策
①産仔期	岩礁(60m以浅)	適正水深の岩礁不足	産卵・産仔場となる沖合の岩礁性施設の整備を行う。
②仔魚期	表層(5m以浅)	特になし(浮遊生活期)	特になし(浮遊生活期)
③稚魚期	藻場(10m以浅)	藻場の不足	稚魚の生活の場となる藻場の整備を行う。
④未成魚期	藻場・岩礁(10m前後)	適正水深の岩礁不足	未成魚の移動経路・生活の場となる岩礁性施設(魚礁)の整備を行う。
⑤成魚期	岩礁(10～100m)	適正水深の岩礁不足	成魚の生活の場となる岩礁性施設(魚礁)の整備を行う。





【ソイ類の成長・分布の模式図】

【ハード整備と連携した取組】
- 指標種のソイ類の種苗放流
- ソイ類未成魚保護のための漁具制限など
- 水産多面的機能発揮対策による、藻場拡大のための岩盤清掃、母藻設置、栄養塩供給
- 藻場保護のための操業期間制限

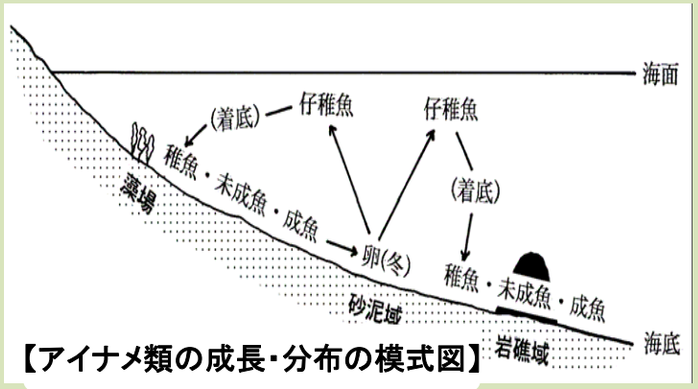
→　生活史全体を通した生息環境空間の創出により、海域の生産力の向上を目指す。

＜噴火湾周辺地区水産環境整備マスタープラン　課題と対策のポイント＞

【指標種の生活史】	①産仔期	②仔魚期	③稚魚期	④未成魚期	⑤成魚期
アイナメ	水深30m以浅の岩の凹み・海藻の根元に産卵する。	表層を浮遊する。カイアシ類、イカナゴ、端脚類を餌とする。	体長5cmまで浮遊生活し、その後、沿岸の藻場・岩礁へ定着。端脚類、エビ類、カニ類を餌とする。	浅場～150mの岩礁域に定着する。遊泳力は低く、あまり動き回らない。未成魚期は岩の凸部、成魚は凹部や下部に多く生息し、なわばりをもつ。ハゼ類、カニ類、エビ類、ゴカイ類、ワレカラ類を餌とする。	

時期	場所	課題	対策
①産仔期	岩礁・海藻(30m以浅)	適正水深の岩礁不足	産卵・産仔場となる沖合の岩礁性施設の整備を行う。
②仔魚期	表層	特になし(浮遊生活期)	特になし(浮遊生活期)
③稚魚期	浮遊→藻場	藻場の不足	稚魚の生活の場となる藻場の整備を行う。
④未成魚期	岩礁(浅場～150m)	適正水深の岩礁不足	未成魚の移動経路・生活の場となる岩礁性施設(魚礁)の整備を行う。
⑤成魚期	岩礁(浅場～150m)	適正水深の岩礁不足	成魚の生活の場となる岩礁性施設(魚礁)の整備を行う。

アイナメ生活史の模式図



【アイナメ類の成長・分布の模式図】

【ハード整備と連携した取組】
・水産多面的機能発揮対策による、藻場拡大のための岩盤清掃、母藻設置、栄養塩供給
・藻場保護のための操業期間制限

→　生活史全体を通した生息環境空間の創出により、海域の生産力の向上を目指す。